



# 活木処

## 2003.5-2004.5

所在地 岐阜県美濃市曾代88  
岐阜県立森林文化アカデミー地内  
建築面積 52.20㎡(15.8坪)  
設計・施工 岐阜県立森林文化アカデミー  
木造建築スタジオ  
安江 一平(三期生)  
市原 佳子(三期生)  
加藤 大典(三期生)  
迫 寛敏(三期生)  
富田 新(三期生)  
船木 絵里子(三期生)  
三澤 文子(教授)  
小原 勝彦(助手)  
辻 充孝(助手)  
指導 松森建設  
総工事日数 90日  
参加総人数 119人(924人工)  
総工事費 300万円

岐阜県立森林文化アカデミー 木造建築スタジオ  
〒501-3714 岐阜県美濃市曾代88TEL 0575・35・  
3889/FAX 0575・35・3890Mail  
studio@forest.ac.jp/URL www.forest.ac.jp

木材乾燥小屋室

緑豊かな国、日本。国土の2/3は森林が占める。しかし外材普及率は80%を越え、国内の林業は不振に喘いでいる。そんな中で国産材の活用が叫ばれ、その解決の一端を担うと考えられるのが、今回のテーマ、木材の乾燥である。木材の乾燥に対する要求が厳しくなっている中、国内の木材流通では安定して乾燥材を供給することができない状況にある。また、現状では重油を大量に消費する木材乾燥システムが主流のため、環境に対する負荷が大きい。活木処に求められたもの、それは自然のエネルギーを利用した木材乾燥システムであった。利用者の要望にかないつつ、木材にとっても周辺環境にとっても、理想的な乾燥方法をごここで模索し、実践することを目的とする。



2003.07.23 地縄張り



2003.08.01 木材管理



2003.08.07 鉄筋組



2003.09.02 木材刻み



2003.09.30 建て方



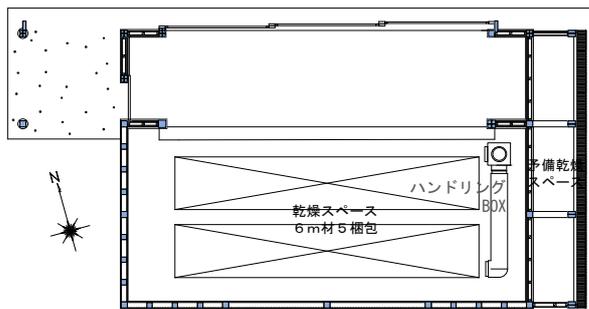
2003.12.01 ハンドリングBOX設置



2004.03.26 集熱ガラス取り付け



活木処 竣工式



平面図 1/150

[1]実際の建物での木材実地試験  
活木処では、3種類の含水率の木材が使用されている。  
①天然乾燥で1年間乾燥させたもの  
→ 含水率20%程度  
②製材後、ドラインセットを施し、表面のみ乾燥させたもの  
→ 含水率50~60%  
③製材した直後のもの  
→ 含水率100%以上  
一般的に建物で使われる木材は、含水率20%が目安となる。そのため、含水率が100%を超えるようなものなど、実際の建物での使用は考えられないが、今回は含水率の異なる材を試験的に使用し材の変化を計測する。

[2]木材流通の把握  
使用された木材は、アカデミー学生によって製材、乾燥、品質管理(含水率など)が行なわれた。原木の出所まで100%の流通を把握し、その材が建物のどこに使われているか追跡している。国産材率は90%、構造耐力を取るために使用した構造用合板の割合が10%で輸入されたものだった。使用した総材積は12.54m<sup>3</sup>である。  
また、工事途中に追加した原木は、その時期の岐阜県の木材市場に出てくる原木の割合に即して購入した。我々が求める等級、量の木材の需要と山側から出される木材供給の関係を意識したものである。



活木処 北西より見る



活木処 南西より見る



活木処 OM集熱システムを見る